

年輪年代学(9)

埋蔵文化財センター

これまで、継続的に進めてきた樹種別の暦年標準パターンの作成は、今年度もヒノキ、スギ、コウヤマキともかなりの進展があった。

1. ヒノキの暦年標準パターンの延長

ヒノキの暦年標準パターンは、昨年度までその先端が紀元前206年までのものができていた。その後、長野県下伊那郡上郷町で堰堤工事中に地下6 mあたりから出土した直径約40cmの埋没ヒノキ1点から計測収集した年輪データによって、その先端を紀元前317年まで延長することができた。このヒノキは、今から約1900年前頃の土砂崩れによって埋没したものであるが、樹幹周辺部が腐朽しているため、その正確な土砂崩れの発生年代を確定することはできなかった。

2. 静岡県下の遺跡出土品によるスギの平均値パターンに暦年の確定

静岡県下の弥生時代の遺跡からは、スギの木製品が多数出土している。試料は、静岡県田方郡の山木遺跡の出土品7点、静岡市川合遺跡の出土品3点、計10点である。この10点から計測収集した年輪データを相互に照合して、その成立年代位置で総平均し、ひとまず675年分の平均値パターンを作成した。これと、静岡県裾野市の富士山山麓の河川工事中に出土したヒノキの840層の年輪データと照合した。この埋木の年輪パターンは、44年から883年までのものである。照合の結果、675年分の平均値パターンは、紀元前420年から255年にかけて形成された年輪であることが判明した。今後、さらに年輪データを補充し、暦年標準パターンにしなければならないが、この平均値パターンは静岡県を含めた周辺のかなり広い地域の弥生時代のスギ製品の年代測定に威力を発揮するであろう。

3. 奈良県下出土品によるコウヤマキの標準パターンに暦年の確定

奈良市に所在する平城宮跡の発掘調査によって出土した掘立柱の柱根には、ヒノキについてコウヤマキが多い。そのなかから12点、さらに平城宮跡に隣接する法華寺境内から出土した掘立柱柱根3点、奈良県橿原市にある四条古墳の周濠から出土したコウヤマキ製品7点、計22点を選びこれらから計測収集した年輪データを使って、年輪パターンの照合をおこなった。つぎに、試料相互間の年輪パターンの照合成立年代位置で年輪データを総平均し、556年分の標準パターンを作成した。これと、平城宮跡出土のヒノキ製品22点で作成した暦年標準パターン（紀元前37年～838年）とを照合した。その結果556年分の標準パターンは、186年から741年までのものであることが確定した。平城宮跡出土のコウヤマキ材と法華寺境内出土のコウヤマキ材15点で作成した556年分の標準パターンは、長い間暦年の確定ができない状態のままであったが、四条古墳出土のコウヤマキ製品の年輪データで補充できたことによって、ついに暦年を確定することができた。今後は、弥生時代の木棺材の年輪データで作成した697年分の暦年未確定の標準パターンに暦年を確定する作業が待っている。

(光谷拓実)